

福岡県の主な農産物の生産状況

平成 30 年 7 月 13 日現在

(専技情報より抜粋)

◇早期水稲（夢つくし、コシヒカリ）◇

4 月中下旬植えの出穂期は 7 月 8～15 日前後と平年並みとなりました。稈長は平年よりやや長く、穂数は平年並みです。一部、7 月上旬の大雨により浸冠水したほ場では、不稔による減収が懸念されます。斑点米対策として穂揃期～乳熟期にカメムシ類対策を徹底し、出穂期前後は水を切らさないよう管理を行いましょう。

◇普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇

6 月上中旬植え「夢つくし」は茎数が確保され、中干し時期を迎えています。6 月下旬植えは、田植え以降の日照不足のため徒長傾向です。各地で 7 月上旬の大雨により冠水が発生しましたが、生育は回復する見込みです。田植え後の降雨に伴う深水により、一部、スクミリングガイによる食害が発生しています。現時点では、いもち病の発生は少ないです。6 月下旬植えは、茎数が確保され次第中干しを開始しましょう。ウンカやいもち病等病害虫の発生に留意し、適切な対策を行い、水利の点検やほ場の異物除去を行いましょう。

◇大豆（フクユタカ）◇

播種は、梅雨の合間をぬって、県北部を中心に 6 月中旬から開始されました。6 月 29 日までは、139ha(前年同期 119ha)の播種進捗でしたが、7 月上旬は台風 7 号に伴う雨、5～8 日の大雨により播種はできず、7 月 11 日から播種が本格的に進められています。播種されたほ場では、一部、大雨による出芽不良発生で、再播種を要します。土壌水分が適度になったら速やかに播種し、土壌の乾湿に応じて播種深度を調整しましょう。再播種や播種時期が遅くなる場合は、播種量を増加しましょう。

◇夏秋ナス◇

雨よけ栽培は、6 月下旬の日照不足と高温および着果負担の影響により、生育は草勢が弱く、落蕾や落花が発生しています。露地栽培は、定植後、順調に生育していましたが、台風 7 号の強風による葉の損傷と日照不足により、草勢が低下し、現在は一部で褐紋病や灰色かび病などによる果実の腐れ果が発生しています。雨よけ、露地栽培共に土壌病害である青枯病の発生ほ場が増加、拡大しています。草勢低下の場合は、早めの収穫や不良果の摘果、肥料の葉面散布で回復を促しましょう。雨よけ栽培は、谷、サイド、妻の換気によりハウス内の昇温抑制に努めましょう。病害対策を徹底し、青枯病発生ほ場は、栽培終了後に土壌消毒を行いましょう。

◇温州ミカン◇

ハウスミカンは、早期加温が6月上旬で終了し、中期加温が6月下旬から出荷中です。果実品質は、糖度は前年よりやや高く、果実肥大も良好ですが一部で浮皮が発生しています。極早生、早生の着果量はやや多く、普通栽培はやや多い～多いで、果実肥大は前年よりやや良いです。病害虫は、サビダニの発生がやや多いです。摘果は、着果量の多い極早生、早生を早急に行い、普通温州は、着果量の多い園から行い、シートマルチをする園では、土壌が乾燥しすぎないようにやや湿った状態で被覆しましょう。また、黒点病・ダニ対策を徹底しましょう。

◇イチジク◇

加温ハウスが出荷中です。品質は概ね良好ですが、飛び節や加温後の生育遅れ、6月下旬以降の高温・多雨の影響による成熟異常果、果実のカビ、腐敗等の発生がやや多く、出荷量は少ないです。無加温ハウスおよび露地栽培の生育は前年よりやや早く、無加温ハウスは7月中旬、露地栽培は8月上旬から出荷開始見込みです。ハウス栽培では適期収穫および鮮度保持管理に努めましょう。また、ハウスの開放度を高め、温度上昇を抑制しましょう。誘引、副梢管理を徹底し、受光体制の改善に努めましょう。冠水被害園では、被害果の除去、真水による洗い流し、病害対策を徹底しましょう。

◇トルコギキョウ◇

6月の出荷量は、5月出し予定分の一部が遅延したために増加しました。6月15日現在、夏季出荷作型（6～9月）の最盛期です。秋出荷作型（10～11月出荷）では冷房育苗が順調に行われ、定植は7月下旬から順次開始されます。秋出荷作型において、大雨で冠水した圃場では、再度、土壌消毒を徹底しましょう。寒冷紗は、定植前から被覆し、地温低下を図りましょう。定植後は抽台開始まで十分なかん水を行い、夜蛾類対策（防虫ネット、黄色灯の設置）を徹底しましょう。

◇ホオズキ◇

草丈は約1mと生育は順調で、着果状況も良好です。7月上旬の大雨により、冠水が一部の圃場で発生しましたが、影響は軽微で生育は回復する見込みです。出荷最盛期は実のみでの出荷は7月下旬、実付き枝の出荷は7月末～8月初旬の予定です。降雨後の白絹病、斑点細菌病対策を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

枝肉単価は、ほぼ前年並みの価格です。過去5年平均比では、和牛枝肉単価は100%を超える水準を継続しています。高温多湿のため、送風や遮光等、暑熱対策を徹底しましょう。